

## ニ ュ ー ス

### ミツバチ生産物に関する国際会議

イスラエル、ハチミツ生産・販売委員会、イスラエル養蜂協会主催による標記の会議 (International Conference on Bee Products: Properties, Application and Apitherapy) が 1996 年 5 月 26~30 日、イスラエル・テルアビブ・Dan Panorama Hotel で開催される。

会議はアメリカミツバチ治療学学会、アピモンディア、IBRA、またアジア養蜂研究協会などが後援しており、ミツバチ生産物の特性、利用法やミツバチ治療学などのプログラムが企画

されている。

詳細についての問い合わせはミツバチ科学研究施設まで。

### 第 9 回国際花粉学会

標記の会議 (The Ninth International Palynological Congress) が 1996 年 6 月 22~29 日、米国・テキサス・Houston で開催される。

詳細連絡先は、Dr. Sarah P. Damassa. 3 Ridge Street, Winchester, MA 01890, USA.

## 玉川大学ミツバチ科学研究施設から

### パラグアイ、台湾から研修生

国際協力事業団の依頼で、パラグアイ国農牧省養蜂部、マリオ・リカルド・キノョーネス・メンドーサ (Mario Ricardo Quiñones Mendoza) 部長が 1995 年 4 月 12 日に養蜂研修のため 17 年振りに来訪。18 日まで、今後のパラグアイにおける養蜂普及に関する意見交換を主とした養蜂全般にわたる研修が実施された。

台湾省政府農林廳蠶蜂業改良場の依頼で、同改良場の陳吉同助理研究員、吳登楨蜜蜂繁殖場主任が 1995 年 6 月 7 日に来訪。13 日まで女王蜂の人工授精を中心に、日本での生物防除法、ミツバチ、マルハナバチの花粉媒介の現状について研修が行われた。

#### 訂 正

ミツバチ科学 16 巻 2 号 (1995 年 4 月 20 日) の記事中に誤りがありましたので訂正いたします。

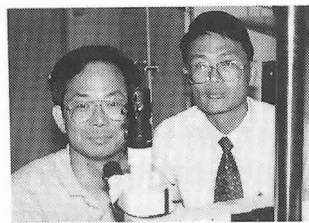
佐治 靖氏の「ハチとヒトの生態学-会津盆地南縁山地の伝統的養蜂-」の記事

69 ページ、右段下から 3 行目。1200cm を 120cm に

76 ページ、右段上から 6 行目。城東市を城東町に



パラグアイのキノョーネス氏



台湾の陳氏(左)と吳氏(右)

#### 編集後記

ローヤルゼリーの薬理作用について、これまで日本大学松戸歯学部薬理教室で行われた研究を中心に藤井博士からレビューをいただいた。ミツバチの体内に菌や異物が侵入した場合に誘導される抗菌タンパクであるアピダエシンについて、ポーランドのグリンスキー氏から寄稿を受けた。最近、都市の中での養蜂に興味もたれているが、春井氏からの寄稿は庭先での趣味養蜂を志す人にとっても参考になる点の多い内容である。(忠)